

# 小規模な自治体における 主体的な地域活動の住民参加

—新潟県糸魚川市田沢地区を事例に—

12110129 古市 瑞樹

# 1. はじめに

## 【研究の背景】

- 近年、全国で人口減少による市町村合併や地域合併が行われている
  - ➡ 地域の担い手不足や地域の繋がりの希薄化が課題
- **地域コミュニティは地域の安全・安心、災害時の共助などにおいて重要な役割を果たすと考えられている**（森島ほか 2023）  
地域の安全整備や環境保護の担い手不足の対策
  - ➡ ボランティア団体・NPO組織による活動が見られる

# 1. はじめに

## 【既存研究】

地域の事業に対する住民一人一人の関心や参加を明らかにした研究

- 「地域緑のまちづくり」への住民の意識と参加意欲について (伊藤ほか 2014)

参加意欲は環境への関心の高さと交流活動への関心の高さによって決定される

- 地域住民のジオパークへの理解と参加について (浅野・馬 2017)

住民の関心は低く、ジオパーク本来の意味とは異なる認識を持っていた

一方、ガイドは居住地域への愛着によりジオパークによるまちづくりへの関心が高かった

これらは**住民の居住年数が浅いという都市的な特徴を持つ地域**の事例

**事業に関心のある住民が集まって積極的に参加・活動する特徴がある**

# 1. はじめに

## 【問題の所在】

- 都市的な特徴を持つ地域でのコミュニティへの住民参加の特徴は、田舎のような住民の居住年数が長い特徴を持つ地域には当てはまるのだろうか
- 2024年6月30日に行われたサマー・クリーン活動での聞き取り調査より田沢地区のイベントでは、住民は事業に関心があるのではなく、地区の活動の一環として参加していることがわかる

	参加者の属性	参加理由	ジオパークの解説についての感想
A	小学3年生	ゴミ拾いしたい	難しくて分からない
B	小学3年生	地区活動だから	難しくて分からない
C	中学1年生	地区活動だから	普段は自分でジオサイトに行くことはないため、自分が住んでいる地域を知れるのは面白い
D	中学3年生	地域貢献したい	香港ジオパーク派遣学習に参加するため、自分の地域のジオサイトを学べて良い経験になった
E	40代	地区活動だから	ゴミ拾いがメインの活動というイメージだが、地区活動でジオパークを学べる機会があることは良いと思う
F	60代	地区活動だから	ジオパークについての話に興味はあるが、運動のために参加しているという気持ち

# 1. はじめに

行政が行う事業に関して、都市的な特徴を持つ自治体での事例で住民個人の意識や関心・参加が明らかになったが、参加意欲が高い人は事業への関心も高いという捉え方

今後全国で人口減少に伴う市町村合併や地区合併により小規模な自治体が増加する可能性がある中で、地域の担い手確保の手がかりとなるのは

**小規模な自治体での住民参加の事例** だと考える

## 【研究目的】

住民の居住年数が長く小規模な自治体における地域活動として新潟県糸魚川市田沢地区の事例を取り上げ、主体的な地域活動が行われてきた要因を検討し、

**事業への地域住民の参加について、小規模な自治体では都市的な自治体と異なる特徴を持つことを明らかにする**

## 2. 研究方法

### 【研究対象】

- 新潟県糸魚川市田沢地区

**地域コミュニティ「まちづくりの会 たざわの輪」**

### 【研究方法】

- たざわの輪・地域活動参加者・糸魚川市ジオパーク推進室への聞き取り調査
- 地域活動参加者へのアンケート調査



**田沢地区の地域活動の特徴や地域住民の地域活動への意識、行政との連携体制を分析する**

# 3. 調査地概要

## 【新潟県糸魚川市 田沢地区】

- 総人口：4,189人（2025/02/01現在）
- 旧青海町に属する地区
- 2014年に須沢・今村新田・八久保・高畑・田海の5地区が合併して現在の田沢地区となった
- たざわの輪という地域コミュニティが地区全体の地域活動を運営している



# 3. 調査地概要

## 【まちづくりの会 たざわの輪】

- たざわの輪設立までの流れ (表は聞き取り調査により作成)

2014年	田沢地区公民館 発足
2016年	田沢地区地域づくりプラン策定の検討開始 田沢小学校が糸魚川市モデル校に指定
2017年	田沢小学校がコミュニティ・スクールのモデル校に指定 以降年1回：大雨・洪水、地震・津波を想定した避難体験学習の実施
2018年	毎月1回の田沢地区公民館管理運営委員会による田沢地区懇談会の開催
2019年	田沢まちづくりの会 たざわの輪 設立 青海中学校がコミュニティ・スクールに指定

- **田沢地区の住民によって主体的に活動が行われており、組織は交流促進部会・資源活用部会・環境整備部会・広報部会の4つのチームに分かれている**

# 4. 調査結果【たざわの輪の活動実績】

- 活動分野と内容を整理した（聞き取り調査により作成）

「教育・防災」「保護・保全」「地域振興」「事業推進」の4分野を参考にした  
(糸魚川ユネスコ世界ジオパーク第3期ジオパーク戦略プロジェクトより)

たざわの輪		交流促進部会	資源活用部会	環境整備部会	広報部会	その他
教育・防災	田海神楽の勧誘・指導			避難訓練体験活動 津波シミュレーション 公民館での防災カルタ		田沢小学校コミュニティ・ スクール事業
保護・保全			田沢三景の整備・調査 天陰・親不知サマー・ クリーン活動	防災の啓発看板の作成・設 置		
地域振興	広場でのライブイベント 映画の上映会		田海神楽 田海ヶ池釣り大会 春の山野草イベント 地区外ジオサイト探訪	地区内LED電灯整備 避難マップ作成		
事業促進					広報誌 年2回の公民館だより 市議会議員の活動参加 のぼり旗作成	

たざわの輪では地域資源の活用や防災活動を中心に住民主体で活動が進められている。たざわの輪は公民館活動としての役割も持っている。

# 4. 調査結果【たざわの輪の活動実績】

## 【資源活用部会】

- **田沢三景事業**

(須沢水芭蕉の保護・整備、マイコミ平の保護・整備、塩の道西回りの整備、青海中学校のジオトープ管理)

須沢水芭蕉の保護活動はジオパーク活動が勧められる以前から周辺住民が地域資源として保護を行ってきたもの

現在は田沢地区に長く住んでいる役員が活動に参加する機会が多い

- **春の山野草・田海ヶ池釣り大会・須沢海岸での石の授業などの活動**

ジオパークガイドや石ガイドがジオサイトでの現地学習に協力している

# 4. 調査結果【たざわの輪の活動実績】

## 【資源活用部会】

- **天険・親不知サマー・クリーン活動**

ジオサイトがある遊歩道や海岸の清掃を青海地区とともに行う

ジオサイトをフォッサマグナミュージアムの学芸員が解説しながら歩く

毎年未就学児から高齢者まで様々な年齢の地区住民が参加し、ジオパーク活動以外にSDGsへの貢献活動としても行われている

- **防災教育事業**

公民館行事：段ボール製の立体地図を用いた津波想定

防災グッズカルタ

小学校での防災学習：講義や消防用ホースを用いた放水体験学習

# 4. 調査結果【地域活動への住民の関心】

- 2024年6月30日に行われたサマー・クリーン活動でのアンケート調査より

	糸魚川市での 居住年数	活動への参加理由	活動参加前と比べた関心度	ジオパークへの 関心	ジオパーク関連 イベントへの参加回数	ジオパーク関連 イベントへの関心
A	0~10年	毎回参加しているから	特に変化はない	4	11回以上	5
B	11~20年	毎回参加しているから	とても興味が増した	3	3~5回	4
C	11~20年	誘われたから	少し興味が増した	3	1~2回	3
D	31~40年	毎回参加しているから	少し興味が増した	4	11回以上	4
E	31~40年	誘われたから	少し興味が増した	3	1~2回	3
F	41~50年	子どもの付き添い	とても興味が増した	5	1~2回	4
G	41~50年	毎回参加しているから	少し興味が増した	3	3~5回	3
H	41~50年	毎回参加しているから	とても興味が増した	4	11回以上	4
I	51~60年	面白そうだったから	少し興味が増した	3	1~2回	3
J	61年以上	公民館事業の為	事業に参加してくれる人達の 気持ちがうれしい	5	11回以上	5
K	61年以上	誘われたから	少し興味が増した	5	6~10回	4
L	61年以上	毎回参加しているから	特に変化はない	3	3~5回	3

毎回参加している人が多いが誘われたため参加した人もいる

地域活動への参加は意欲が高いというよりも参加することが慣例になっている  
と考えられる

(表はアンケート調査により作成)

## 4. 調査結果【地域活動への住民の関心】

### たざわの輪役員への聞き取り調査より

- メンバーの中にはジオパーク事業に関心を持ち、**ジオパークガイド**や田沢地区内のジオエリアであるマイコミ平のガイドとなった人がいる

### サマークリーン活動での聞き取り調査より

- 糸魚川市役所に勤める人の知り合いや家族、親が地域活動の役員である子どもは事業への関心が高かった
- 中学生は学校での地域学習でジオパークにふれるため、関心が高かった
- 親は関心がないが子どもが行きたいというから連れてきたという参加者もいた

# 4. 調査結果【たざわの輪と行政・学校の連携】

たざわの輪とジオパーク推進室への聞き取り調査より

## 【行政との関わり】

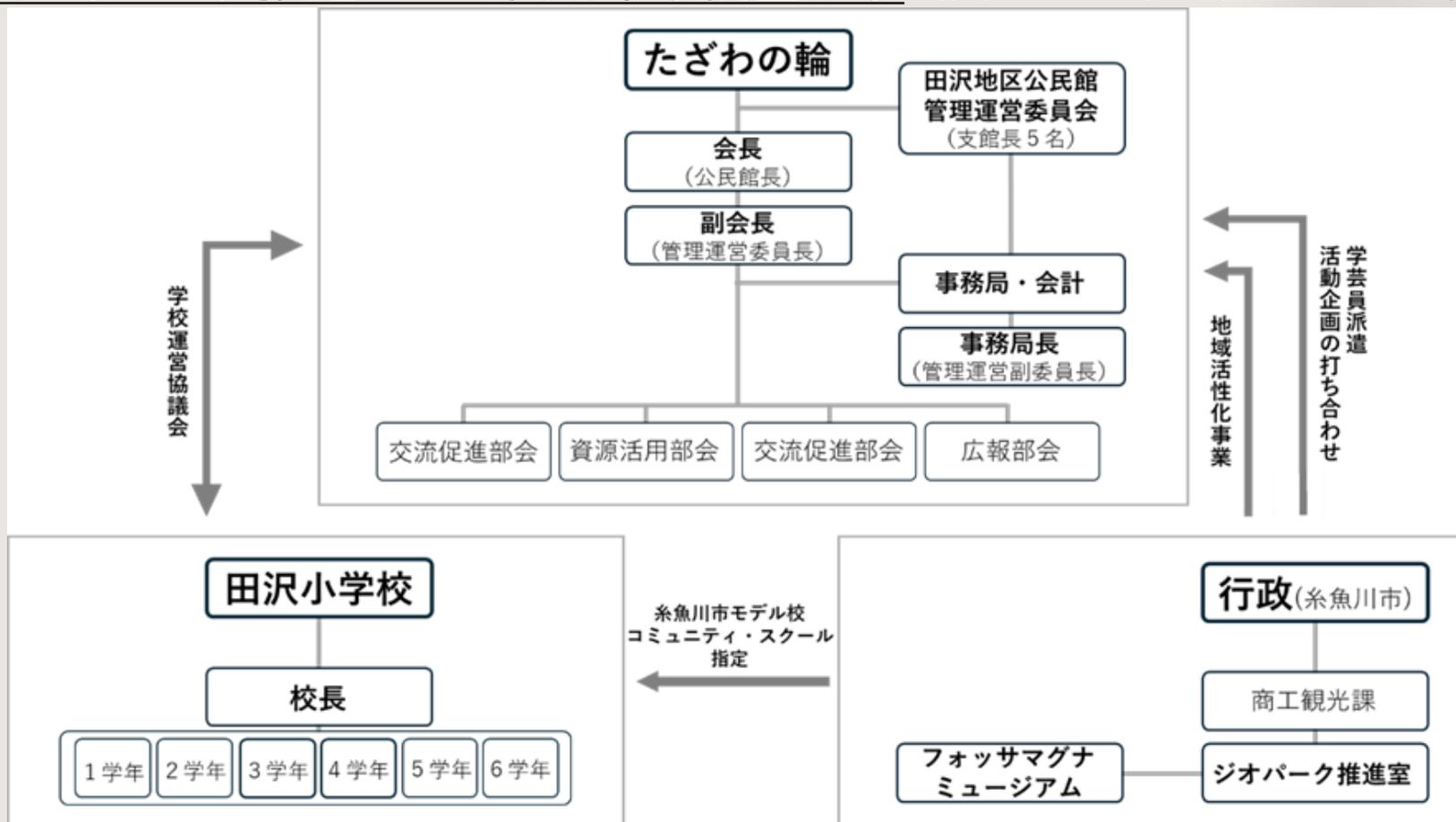
- **糸魚川市の地域づくり活動支援事業への参加 → 地域活動の体制を整えた**  
たざわの輪は地域づくり活動支援事業に参加するために地域づくりプランを考えた結果、誕生したコミュニティ
- 地域資源を活用したイベントは住民とジオパーク推進室・フォッサマグナミュージアムの学芸員が会議を行い内容を決定するが多い
- イベントでの地質地形の解説・ジオサイトの解説は住民からの依頼により学芸員が派遣される

## 【田沢小学校との関わり】

- 田沢小学校がコミュニティ・スクール事業の指定校になった  
→地域に関わる授業では地域住民が講師として参加するなど児童と地域住民との関わりがある
- **たざわの輪会長兼田沢地区公民館館長、役員数名が学校運営協議会に参加**している

# 4. 調査結果【たざわの輪と行政・学校の連携】

- たざわの輪とジオパーク推進室への聞き取り調査より（図は聞き取り調査により作成）



たざわの輪 ▶ 行政 : 地域資源を活用したイベントを行う際に相談

たざわの輪 ▶ 小学校 : 自然・歴史文化の学習に協力

# 5. 考察

## 【田沢地区で住民による主体的な地域活動の特徴】

- 糸魚川市で事業が始まり、田沢地区の景観を保護してきた一部の住民の、事業への関心は高かったと考えられる
- 糸魚川市の人口減少に伴い地区が合併され、行政が行う地域づくり支援事業に参加するために新たな地域コミュニティを作った

**田沢地区は居住歴が長い住民が多い**（事前調査より）

**合併前から小学校区が同じだったことで各地区の住民は関わりがあった**

**住民が新たなコミュニティに参加することへの抵抗がなく、異なる地区の住民からなる地域活動の協力体制が整えやすかったと考えられる**

# 5. 考察

## 【田沢地区で住民による主体的な地域活動が行われてきた要因】

- たざわの輪が行う活動は地域づくりや事業に関心がある住民向けではなく、地区内の全ての住民を対象とした**地区の年間行事**のような位置づけ
- 田沢地区の景観を保護してきたたざわの輪役員によって、活動の中にジオパークの要素が含まれた



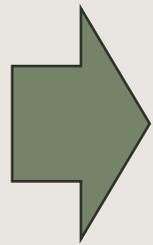
住民はジオパーク事業に強い関心があるわけではないが、  
「地区の年間行事」として、また、地区の知り合いからの誘いによって、地区活動に参加している

地区活動の運営は事業に関心のある住民を中心として進められるが、住民にとって地区活動が出席するものとして認識され、結果的に主体的に活動が進んでいる

# 5. 考察

## 【田沢地区で住民による主体的な地域活動が行われてきた要因】

- たざわの輪が行う活動は地域づくりや事業に関心がある住民向けではなく、地区内の全ての住民を対象とした**地区の年間行事**のような位置づけ
- イベント企画段階で行政と相談し、「地域活動として」事業に触れるようにしている
- コミュニティ・スクールの事業に地域への関心がある住民が協力している



**地区活動だけでなく小学校の地域に関する授業への協力を通して  
地域との関わりが生まれている**

**地区活動の運営は事業に関心のある住民を中心として進められるが、小学校の取り組みと関わることによって住民の地域への関心が高まると考えられる**

# 6. おわりに

## 【新潟県糸魚川市田沢地区での地域活動】

- 地区合併以前から地区間での住民の繋がりがあったことにより、異なる地区の住民からなる地域活動の協力体制が整えやすかった
- 地区活動の運営は事業に関心のある住民を中心として進められるが、住民にとって地区活動は参加するものとして認識されているため事業に関わる機会が生まれている

都市的な自治体のように事業に関心がある住民が集まって活動を行っているのではなく、**小規模な自治体では、住民の事業への関心がない場合でも地区の年間行事として地域づくりや事業に関わる活動を行っていることが明らかになった**  
また、**地区全体で住民が積極的に活動することによって地域の担い手確保にも繋がっていると考えられる**

# 7. 今後の課題

- 今回実施した住民へのアンケート調査では、参加理由がだ「毎回参加しているから」という回答が多かったが、イベントが4回目の開催であったためと考えられる  
イベントが初めて行われる時の参加理由を質問することで、地区活動への住民の関心がより分析しやすいと考えられる
- また、今回は地区合併前後の住民の交流については聞き取りしておらず、考察のみとなっている  
地区合併前後の住民の交流を把握することで田沢地区の地域活動の特徴をより明確にすることができると考えられる

# 参考文献

- 浅野敏久・馬欣然 2017. 山陰海岸ジオパークにおける住民の理解と参加. 地理学評論 90(4):376-389.
- 伊藤壮一・福島悠介・室田昌子 2014. 地域緑のまちづくり事業における住民の意識と参加意欲に関する研究—横浜市牛久保西地区を対象として—. 都市計画報告集 12(4):122-125.
- 斎尾直子・藍澤宏・土本俊一・村山直樹 1999. 公立小・中学校の地域施設としての機能複合化に関する研究. 日本建築学会計画系論文集 523:131-138.
- 鈴木春菜・藤井聡 2008. 地域愛着が地域への協力行動に及ぼす影響に関する研究. 土木計画学返球・論文集. 25:357-362.
- 関根仁美・角保智也・武田祐之・加賀有津子 2023. 地域属性と個人属性からみた地域愛着及び愛着スタイルに関する研究. 都市計画論文集 58(3):624-631.
- 戸田敏行・大貝彰 2006. 愛知・静岡・長野県境地域における地域連携活動の実態分析. 日本建築学会計画系論文集 602:137-144.
- 中塚雅也・小田切徳美 2016. 大学地域連携の実態と課題. 特集論考. 農村計画学会誌 35(1):6-11.
- 新名阿津子 2010. 山陰海岸ジオパークにおける地域振興と住民活動. 2010年度日本地理学会秋季学術大会. 日本地理学会発表要旨集.
- 森島明日香・金度源・大窪健之 2023. 祭りの行程への参加と地域愛着・世代間交流との関係性 —岐阜県飛騨市古川町の古川祭を対象として—. 都市計画論文集 58 (3):632-639.